

地域が求める外来看護の役割 —自施設の外来看護の役割と今後の課題—

IHI 播磨病院 土井 美雪

相生市の高齢化率は34.8%と全国平均より高く、独居・高齢者世帯も多い。そのなかで、自施設は地域包括ケア病床や回復期リハビリテーション病棟を有し、在宅復帰に向けて準備が必要な患者や家族の介護負担の軽減を目的とした入院(レスパイト入院)の受け入れを行っている。また、在宅医と外来看護師による訪問診療、訪問看護ステーションによる訪問看護・リハビリを行い、在宅生活のサポートを行っている。しかし、患者・家族のニーズや身体的・精神的・社会的問題は多様化してきており、継続して在宅生活を送ることが困難なケースが多くなってきている。

また、「病院完結型」から「地域完結型」にシフトし、介護度の高い患者だけでなく、吸引、褥瘡・ストーマや経管栄養の管理、癌末期の緩和ケアなど医療度の高い患者も在宅生活を余儀なくされる。そのため、看護師は多岐にわたる専門的な知識・技術が要求される。そのなかで、外来看護師は在宅で生活する患者・家族の声を直接聴くことができる位置にある。そのため、患者・家族のニーズを地域や病院に発信する役割を担うことができる。患者・家族の日常生活状況を把握し、どのような不安や問題があり、何を求めているのかを理解したうえで、疾患だけでなく生活する背景にも目を向けアプローチしていくことが必要であると考えます。

そこで、訪問看護ステーション、外来勤務の経験と皮膚・排泄ケア認定看護師としての視点から地域が求めている外来看護の役割と当院の今後の課題について述べる。

1. 外来受診時に患者・家族の訴えから日常生活を送ることに問題がある対象者をキャッチし、MSWや地域のコメディカルと情報共有しながら看護介入していく。

- ① 疾患だけでなく、患者・家族の生活全体に視点を置いた問診を行う。
- ② 地域コメディカルのネットワークへ参加し、地域住民のニーズを把握する。
- ③ 電話や外来受診時の聞き取りによる日常生活状況のモニタリングを行い、シームレスな看護を提供する。

2. 医療度の高い患者に対し、安心・安全な日常生活を担保できるよう専門的な知識や技術を患者・家族および地域のコメディカルに情報提供していく。

- ① 皮膚・排泄ケア認定看護師による専門外来を開設し、地域コメディカルへ知識・技術の伝達や褥瘡予防・ケアやストーマケア等に対する不安や疑問に対応できる体制をつくる。

3. 患者・家族が日常生活上の不安や悩みを気軽に相談し、対話できる場所として開かれた外来を創っていく。

- ① 介護教室の開催や患者・家族会等に関わり、地域と協同し地域住民を支えていく活動を行う。

病院理念「健康を願う人々の精神(こころ)と身体(からだ)にあたたかい医療を」をもとに、地域と病院を繋ぎ、患者・家族の生活を支える外来看護を提供していきたいと考えている。